

民生・児童委員に聞く！

実際に民生・児童委員の皆さんはどのような思いで活動しているのか、役員を務める皆さんにお話を聞きました。



認知症の方の対応など、専門知識が必要な場面は大変です。地域包括支援センターなどに間に入ってもらいながら対応をしますが、難しさを感じます。

高齢の一人暮らしで冷房がないお宅。昨年の夏は連絡が取れず、熱中症ではないかと心配することもありました。今年の夏も心配です…

訪問を重ねると顔見知りになり、相談をしてくれるようになりました。嬉しさもありますが、相談の内容によって線引きが難しいように感じます。

夜中や早朝の対応に苦慮しています。一人暮らしの方など対応はせねばと思いつつも、どこまでしないといけないのかと迷うところも多いですが、笑顔やお礼の声を聞くと嬉しくなります。

受持ち地区が広く、地区全体を把握できているかと言われればまだ自信がありません…



今回お話を伺った民生・児童委員の皆さん（五十音順）

- 坂田 弘子さん（町） 田中 悠子さん（有佐） 中島 美鈴さん（高野道） 永田 信子さん（上鹿島）
- 中原 郁美さん（東上宮） 西村 豊美さん（中綱道） 濱田 たみよさん（新村） 藤田 英二さん（吉本）
- 益田 直子さん（宮園） 道永 幸枝さん（高野道） 村上 ヤス子さん（桜ヶ丘）



じっくり話を聞くことで、笑顔になってくれることがあります。時間をかけて話を聞くことができるというのも民生委員としてのやりがいではないかと思えます。

地区に長く住んではいますが、町外で仕事をしていました。活動を通して顔見知りが増え、広く・浅くの関係性の重要さを改めて感じています。

月2回子どもたちの見守りを行っています。子どもたちと顔なじみになり、顔を見かけると手を振ってくれたり、声をかけたりしてくれることも増えました。

委員とと言われる時にはどうしようかと悩んで受けました。大変なこともありますが、地域の方々に喜んでいただけて、やりがいもあります。

最初は訪問しても「帰れ!」と言われることもありましたが、徐々に打ち解け、笑顔で会話をしてもらえ関係性になりました。

一人暮らしの方や高齢者宅を訪問して「顔を見ると元気が出る!」と言われたときは嬉しかったです。

身近な相談相手として

「法律に基づいて」や「非常勤の地方公務員」と聞くと少しかしこまった固い印象を受けますが、実際には一人の住民という立場で、私たちのすぐ近くで活動をしているのが民生・児童委員です。

「この活動をしていると、地域に自分の身内が増えたように感じる」という言葉も聞かれました。自分の近くにはそう思ってくれる、いざというときに相談できる存在がいるという安心感は大きいものです。生活の中でふと「困ったこと」に遭遇した時には、民生・児童委員の存在を思い出し、相談をしてみたいかがでしょうか。

※お住まいの地区の民生・児童委員が分からない場合は福祉課 ☎0965-5215852 までお尋ねください。

